

「ともにがんばろう！東北」

関経連速報震災特別号

TEL 06-6441-0105

発行所／公益社団法人 関西経済連合会

編集発行人／三村 典子

FAX 06-6443-5347

2011年9月30日(金) 第4号

編集／苅田 弥生

URL <http://www.kankeiren.or.jp/>

<不定期発行>

東日本大震災に関する関経連のさまざまな取り組みをまとめ、関経連速報<「ともにがんばろう！東北」震災特別号>として、乙種を含む、会員の皆様にお送りしております。

被災地の生の声を～震災復興対策特別委員会 東北訪問～

9月21日(水)～22日(木)に実施、安藤委員長(三井住友銀行副頭取)、小椋副委員長(バンドー化学会長)、稲田アドバイザー(関西社会経済研究所所長)はじめ15名が参加した。

宮城県、東北経済連合会、岩谷産業エネルギー東北支社、東北経済産業局を訪問し、各訪問先の復興計画や支援活動等について説明を受け、意見交換を行った。宮城県の復興計画や東北経済産業局の産業振興アクションプランでは、東北の強みを生かしつつ抜本的な再構築を行い、競争力のある地域としての復興を目指すという力強い方針が示された。

意見交換では、震災後2～3年間の復旧については早く財源を確保して国主導で行って欲しい、震災を機に東北においても広域連合を設立したいと考えているが議論が進んでいない、といった意見が出された。

関西への期待としては、復興関連の予算措置や通商交渉推進・為替相場安定の政府への働きかけ、東北のものづくりと関西企業との連携、物産展等のイベントへの協力、などがあげられた。いただいた意見を今後の提言活動・支援活動に生かしていく。
(経済調査部 矢野)

オール西日本で継続した復興支援を～南三陸町・ボランティア「関経連号」の現場から～

関経連では、9月21日(水)～24日(土)の日程でボランティアバス「関経連号(第2便)」・「西経協号」を宮城県南三陸町へ派遣しました。今回は、7月に宮城県石巻市に派遣した「関経連号」に続く第2弾として、バスを2台に増車、関経連会員企業に北陸・中部以西の6経済連合会で構成する「西日本経済協議会」の事務局スタッフを加えた、合計40名で活動しました。

出発日に台風が日本列島を縦断、高速道路の通行止めによる現地到着大幅遅延の影響により、活動初日はボランティア活動を中止しましたが、宿泊先の「南三陸ホテル観洋」の女将・阿部憲子氏より震災直後の対応や復興に向けた熱い思いをご講演いただきました。23日は、直接的な津波被害を受け更地と化した志津川地区にて、土砂中の埋没物を「木材」「金属」「ガラス」「可燃物」等に仕分けする作業を行いました。作業中、漂着した漁船の甲板や漁網、衣類などが土砂から掘り起こされ、テレビ等を通じてだけでは伝わらない、被災地の失ったものの大きさを参加者一同実感することになりました。

ボランティアニーズは減少しているといわれていますが、被災地によって復旧のスピードが大きく異なり、南三陸町のようにまだまだボランティアの支援が必要な地域もあります。その現実を目の当たりにし、今後もこの地震・津波の記憶を絶対に風化させることなく、現場の声を的確に把握しながら、心の通った支援活動を引き続き行ってまいります。会員企業の皆さまにおかれましても、今後の活動へのご理解・ご協力をよろしくお願い申し上げます。

(企画広報部 壺井、産業部 鍵田、経済調査部 山下)

